

演心力～広げよう演劇の輪～

講評速報 15号

12月26日(木)

【三重】

三重高等学校

マナちゃんの真夜中の約束・イン・ブルー

～劇団チュム上演台本より～

この劇は、主人公のマナちゃんが見ている夢。夢特有の不思議な出来事がめまぐるしく展開していく。

舞台上にはカラフルで様々な形状の、つみきを思わせるボックスが置いてあった。その色や形が幼い印象を与え、非日常的な夢の空間をより効果的に演出していた。更にこのボックスは冷蔵庫として使われたり、階段として使われたりと、シーンに合わせて様々な活用されていた。照明は場面ごとにくらこく変わるホリゾンライトが印象的だった。それもまた夢の混沌とした雰囲気づくりに役立っていたと思う。途中までせめられた中割幕により空間の奥行きが感じられ、見えない部分が生まれたことで夢の不確かさを表しているように思えた。また、背景の黒によりカラフルな大道具が映える効果もあった。

講評委員の間では多くの意見や疑問が飛び交い、一つのテーマに絞り込むには至らなかったが、訳の分からなさも含め受けた衝撃が大きく、楽しめる作品だった。

劇中の台詞に何度も登場したザクリッチは「さいわい」を例えていると捉えた。それは銀河鉄道の夜に登場するカムパネルラが、台詞の中の「さいわい」を「ザクリッチ」に言い換えていたことによる。なぜ「ザクリッチ」なのかという疑問については、「リッチ」という言葉が「金持ち」「裕福さ」を連想させる点、ガリガリ君よりも値段は高いがそれほど高価ではないために「ささやかな幸福」を連想させる点が理由として挙げられた。

他にも、人差し指と親指を立てた通称「田舎チョコキ」も、物語の鍵となる存在だと考えた。マナちゃんの夢の中では、田舎チョコキをすると手から銃弾が飛び出す。田舎という言葉が発展途上国を連想させ、中でも劇中で登場したシリアなどと合わせて考えると、田舎チョコキと戦争との関係性を感じさせる。また、田舎チョコキが事故で発砲していたのに対して、両手で銃の形を作り乱射するシーンでは、マナちゃんが意思を持って銃を撃っていたようにも見えた。今まで片手だけの田舎チョコキで銃を表していたのが両手になることで、威力が上がること、つまり戦争の長期化をも連想できる。

戦争やさいわい等の大きな題材を扱いながら、笑いを取り入れた演出や夢の中という設定があることによって、陰鬱とした気分ではなく不思議な夢から覚めたような気分で劇を見終えることができた。考察の切り口が多い作品であり、何度でも見たいと思う劇だった。